

第361回  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
《プログラム》

日時:平成24年3月10日(土)午後2時00分  
会場:イタリア軒 5階 『春日の間』  
新潟市中央区西堀通7 025-224-5111

次回 第362回新潟地方会予告  
期 日:平成24年6月9日(土)  
会 場:長野県松本文化会館 国際会議場  
(信州・山梨・新潟合同地方会)  
演題申込期限:平成24年4月上旬

PC 発表のみです。

口演時間は、1題6分・討論3分(時間厳守)

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

日本泌尿器科学会新潟地方会

会長 高橋 公太

TEL: 025 (227) 2289 / FAX: 025 (227) 0784

## 1. 異所性子宮内膜症により尿管狭窄をきたした1例

長岡中央総合病院 泌尿器科 秋山さや香、高橋英祐、照沼正博

47歳女性、主訴は左下腹痛。CTで左水腎症、左下部尿管壁肥厚あり当科初診。尿細胞診陰性。逆行性腎盂尿管造影、尿管鏡で下部尿管の狭窄認めるものの、明らかな尿管腫瘍はなく、その時の細胞診も陰性であった。後日、左尿管部分切除術を施行し、術中迅速病理で悪性所見のないことを確認し、尿管尿管吻合術を施行した。病理組織は子宮内膜症の診断であった。術後CTでは水腎症の改善を認めた。本症例につき、文献的考察を加えて検討した。

## 2. 治療に苦慮した Low-flow type 持続勃起症の1例

新潟労災病院 泌尿器科 鳥羽智貴、小池 宏

持続勃起症は High-flow type と Low-flow type に分類され、治療法はそれぞれで異なる。特に low-flow type に関しては陰茎の壊死を引き起こす可能性があり、早急な対応が必要となる。今回、われわれは 27 歳の Down 症候群患者に発症した Low-flow type の持続勃起症を経験し、Al-Ghorab 法によるシャント形成術を試みた。自験例について、若干の文献的考察を交えて報告する。

## 3. 最近経験した静脈内塞栓を来した腎癌の3例

立川総合病院泌尿器科<sup>1)</sup>、心臓血管外科<sup>2)</sup>

山口峻介<sup>1)</sup>、武田啓介<sup>1)</sup>、村山慎一郎<sup>1)</sup>、若林貴志<sup>2)</sup>、杉本 努<sup>2)</sup>、山本和男<sup>2)</sup>、  
上原 徹<sup>1)</sup>

腎癌の下大静脈塞栓例をこの数ヶ月で3例経験した。2例は根治的腎摘除術及び静脈内腫瘍塞栓摘出術を施行した。1例は腫瘍再発を認め術後約2ヵ月で死亡し、1例は現在術後経過観察中である。更に1例は手術困難と考え経皮腎生検を施行し、組織診断は淡明細胞型腎細胞癌であった。現在スニチニブにて化学療法中である。この3例の経過について若干の文献的考察を加えて報告する。

## 4. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における 2011 年の手術統計

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

星井達彦、山崎裕幸、笠原 隆、新井 啓、谷川俊貴、西山 勉、高橋公太

2011年の手術室での手術件数は387件、密封小線源療法(LDR)は15件、高線量率組織内照射療法(HDR)は37件、計439件であった。なお、LDR、HDRは前年と比べてほぼ横ばい(それぞれ前年17例、35件)であった。2007年7月からLDR、2009年6月からHDRを開始し、2011年12月末の時点でそれぞれ計77件、計91件と順調に症例を重ねており、当科では限局性前立腺癌に対する治療法として定着しつつある。

## 5. がんセンター新潟病院における 2011 年の手術統計

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科<sup>1)</sup>、長岡中央病院泌尿器科<sup>2)</sup>  
小林和博<sup>1)</sup>、秋山さや香<sup>2)</sup>、田所 央<sup>1)</sup>、斎藤俊弘<sup>1)</sup>、北村康男<sup>1)</sup>

2011 年の手術件数は 1045 件 (1128 手技) であった。主なものは、腎摘 27、腎部切 23、腎尿管全摘 31、TURBT332、膀胱全摘 21、前立腺生検 405、前立腺全摘 34、前立腺密封小線源挿入 19、高位精巣摘出 26、陰茎全摘・部切 4 などであった。近年と同様、癌の治療に特化した内容であった。

## 6. 済生会新潟第二病院泌尿器科における 2008 年から 2011 年の手術統計

済生会新潟第二病院 車田茂徳、吉水 敦

当科における 2008 年から 2011 年の 4 年間の手術統計について報告する。年間の手術総数はそれぞれ、1045、1078、1067、1166 例で、主な手術は ESWL、HoLEP、PNL、TUL であり、それぞれの年次推移は ESWL : 285、284、289、304 例 (回)、HoLEP : 232、242、245、215 例、PNL : 87、101、78、94 例 (回)、TUL : 71、76、88、123 例であった。前立腺肥大症、尿路結石症に特化した当科の特徴が現れた結果となった。

14 : 54 ~ 15 : 39

座長 斎藤俊弘

## 7. 陰嚢内脂肪肉腫 7 例の検討

新潟県立がんセンター新潟病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、病理部<sup>2)</sup>  
田所 央<sup>1)</sup>、小林和博<sup>1)</sup>、斎藤俊弘<sup>1)</sup>、北村康男<sup>1)</sup>、川崎 隆<sup>2)</sup>

【目的】陰嚢内脂肪肉腫は比較的稀であり、検索し得た限りでは本邦で今までに 108 例が報告されている。今回我々は陰嚢内脂肪肉腫の臨床病理像および治療と予後の関係を検討した。【方法】1996 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日までに当科で加療した陰嚢内脂肪肉腫の症例 7 例を後ろ向きに解析した。初診時平均年齢中央値は 62.3 歳 (38 - 83 歳)。【結果】再発を 2 例に認めただが、いずれも初回治療時の断端陽性症例であった。【考察】再発や転移を防ぐためには広汎な摘除が必要と思われる。

## 8. 局所浸潤、腹膜播種、腹壁浸潤を伴う右尿管腫瘍に対し、MFAP 療法、ゲムシタピン・パクリタキセル併用療法、ゲムシタピン・ドキシフルリジン維持療法を行い、長期生存を得た 1 例

会津クリニック<sup>1)</sup>、竹田総合病院<sup>2)</sup>

玉木 信<sup>1)</sup> 新井 啓<sup>2)</sup> 糸井俊之<sup>2)</sup> 加藤義朋<sup>2)</sup> 細井隆之<sup>2)</sup> 松岡俊光<sup>2)</sup>

症例は 41 才女性。近医泌尿器科より右尿管癌にて紹介、同医での生検にて UC、Grade1。平成 18 年 12 月から MFAP 療法を施行し SD であったが、その 3 ヶ月後に原発巣の増大のためセカンドライン化学療法としてゲムシタピン・パクリタキセル併用療法を施行され SD であった。その後維持療法としてゲムシタピンは同量のままの 1100mg/m<sup>2</sup> を day 1, 8, 15, に点滴静注、ドキシ

フルリジン 400mg/body を連日内服し 28 日を 1 コースとした。この間わずかな腫瘍径の増大はあり、また、尿管口からの腫瘍の突出に対し経尿道的切除を行ったが、維持療法の 40 ヶ月以上の期間中、新規転移の出現はなかった。

## 9. Degarelix 治療後のホルモン回復について

新潟大学腎泌尿器病態分野

信下智広、石崎文雄、瀧澤逸大、星井達彦、原 昇、西山 勉、高橋公太

Degarelix は GnRH 受容体に対する競合的 antagonist である。degarelix の治験に参加した 8 例で degarelix 治療終了後の血液中のホルモン回復について検討した。2007 年 12 月から 2008 年 8 月までに degarelix の治験参加に同意を得られた未治療前立腺癌患者 8 名を対象とした。degarelix は初回投与量 240mg、維持用量 80mg (3 名) / 160mg (5 名) で 12 ヶ月で終了した。血液中の LH、testosterone、PSA を測定し、治療終了後 LH が正常化するまでの経過を観察した。LH-RH agonist と比較した結果を当日発表する。

## 10. Avolve の使用経験

村上総合病院 泌尿器科 山名一寿 小松集一

Dutasteride は男性ホルモンの代謝経路においてテストステロンからデヒドロテストステロンへの還元酵素を阻害する。Avolve はこの作用を用いて前立腺体積を縮小させ前立腺肥大症を改善させるとして本邦においてもガイドライン (GL) で推奨グレード A とされた。当科で 2011 年 4 月以降に Avolve を処方開始した 170 例について、投与前後の前立腺体積、残尿測定、PSA 値、有効性、認容性について評価した。多くは 1-blocker との併用であるが認容性は高かった。有効性は主に自覚症状を 4 段階評価し検討した。

## 11. 平成 21 年度新潟県前立腺がん検診 県全域と主要地域別の検診結果

### 新潟県前立腺がん検討委員会

小松原秀一、西山 勉、波田野彰彦、斉藤俊弘、森下英夫、羽入修吾、  
片山靖士、片桐明善

平成 21 年度は検診対象者数 201,574、受診者数(率) 27,900 (13.8%)、要精検者数(率) 2,274 (8.2%)、精検受診者数(率) 1,568 (69.0%)、がん数 154、発見率 552.0 (人口 10 万対)、早期がん割合 71.4% であった。県内主要地域別の結果についても報告する。

15 : 39 ~ 16 : 00

【日本泌尿器科学会新潟地方会総会】

[ 休 憩 16 : 00 ~ 16 : 15 ]

# サテライトセミナー

日時：平成24年3月10日(土)  
16時15分～17時20分  
会場：イタリア軒 5階『春日の間』

16時15分～16時25分  
情報提供

「ランマーク皮下注120mgの有用性について」

第一三共株式会社

16時25分～17時20分

司会 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野  
教授 高橋公太先生

「トランスレーショナルリサーチとしての前立腺癌遺伝子治療  
-アカデミアとしての取り組み-」

講師 岡山大学病院 新医療研究開発センター  
教授 那須保友先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会  
第一三共株式会社

サテライトセミナー終了後、情報交換会を行います。